

日本集団精神療法学会 第35回大会プログラム

今そこに棲むグループな力



12日(土) 午前



12日(土) 午後



理事会 12:00~13:30 第3会議室

会員総会 13:40~14:20 講堂

基礎講座 14:30~17:30 C500

基礎講座

<講師> 鈴木 純一 (東京集団精神療法研究所)
 <コングラドクター> 相田 信男 (群馬病院)
 田辺 等 (北星学園大学)
 岡島 美朗 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

この基礎講座は、集団精神療法を自ら病院内で実践されながら、長年にわたって幾多の集団療法家を育成されてきた東京集団精神療法研究所長の鈴木純一先生を講師にお願いしています。
 講師からミニ講義をいただき、そのあとに、病院や地域でグループを始めるとき・続けるときの課題、グループ力動の学び方などのテーマでの共同学習を想定しています。
 当日、多少の変更があるかもしれませんが、あくまで参加者全体ディスカッションで動いていきます。発言や質問をしながらの参加を期待します。進行は、主として、これまで先生のご指導を受け、本学会の教育研修や基礎講座に携わった経験が比較的長いメンバーが担当します。(文責田辺)

大会長講演 9:55~10:25 講堂

一地方病院の経験

<演者> 東端 憲仁 (北海道立緑ヶ丘病院)
 <司会> 武井 麻子 (日本集団精神療法学会 理事長 / Office-Asako)

特別講演 10:30~11:50 講堂

対話の力 ~オープンダイアログと当事者研究が拓く世界

<演者> 向谷地生良 (北海道医療大学)
 <司会> 東端 憲仁 (北海道立緑ヶ丘病院)

テーマセッションI 教育・研修・技法・理論 14:30~16:30 A401

<司会> 小宮 敬子 (日本赤十字看護大学)
 嶋田 博之 (関東医療少年院)

I-1 集団精神療法のトレーニングにおける体験と学びの融合の試み
 ~『丁寧にグループを勉強する会』の実践を通して~ 杉山恵理子 (明治学院大学)
 藤巻加奈子 (神奈川病院)

I-2 LfA Japan 2017 における Administrator の役割 川合 裕子 (大阪経済大学)
 古賀恵里子 (大阪経済大学)

I-3 LfA Japan 2017 におけるメンバー集団とスタッフ集団の関係性についての考察 古賀恵里子 (大阪経済大学)
 川合 裕子 (大阪経済大学)

I-4 3タイプのエンカウンター・グループについての検討 野島 一彦 (跡見学園女子大学)



テーマセッションⅡ 児童・思春期		14:30~16:30	A403
<司 会> 河合 健彦 (群馬病院) 小島 秀樹 (ことに心療内科/札幌市SC)			
Ⅱ-1	コミュニティミーティングが“格下げ”されると —グループはどう動き出すか—	黒江美穂子 (国立国際医療研究センター-国府台病院) 吉村 裕太 (国立国際医療研究センター-国府台病院) 岩垂 喜貴 (国立国際医療研究センター-国府台病院)	
Ⅱ-2	児童期女子のグループセラピーにおける子どもの嘘と 甘えの意味	那須 里絵 (国際基督教大学大学院) 西村 馨 (国際基督教大学)	
Ⅱ-3	通常の学級における特別支援の一機能について —特殊作動グループを通じてグループを経験すること	新田 耕佑 (京都文教大学大学院)	
Ⅱ-4	施設全体が治療集団となる取り組み	菊池 清美 (筑後いずみ園) 堀川 公平 (筑後いずみ園) 堀川百合子 (筑後いずみ園)	

テーマセッションⅢ 家族・地域		14:30~16:00	A503
<司 会> 田中 怜子 (フリーランス) 吉野 淳一 (札幌医科大学)			
Ⅲ-1	「ここでしか話せない」人たちの短期小グループ —稀な体験を語れる場—	西田知佳子 (NPO法人環の会)	
Ⅲ-2	釜ヶ崎地区で独居する生活保護受給高齢者の SSTグループを継続する意義	瀧尻 明子 (島根大学)	
Ⅲ-3	大人の発達障害者を支える家族への心理教育の取り組み と今後の課題	長南 拓馬 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック) 佐藤由希子 (さっぽろ駅前クリニック)	

テーマセッションⅣ 発達障害 1		16:15~17:15	A503
<司 会> 岸 信之 (京都桂病院) 水上真理子 (石橋病院/むぎのこ発達クリニック)			
Ⅳ-1	自閉症児の情動調整機能発達 活動 -面接集団療法における男子中学生の成長を通して	木村 能成 (国際基督教大学大学院) 西村 馨 (国際基督教大学)	
Ⅳ-2	自閉症スペクトラム (ASD) 傾向者に対する 集団認知行動療法 (CBGT) の試み	大野 史博 (さっぽろ駅前クリニック) 岡崎 亮 (さっぽろ駅前クリニック) 佐藤由希子 (さっぽろ駅前クリニック) 大賀絵里香 (さっぽろ駅前クリニック) 大濱 伸昭 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック)	

事例検討Ⅰ		14:30~17:30	C502
グループメンバーが二分化した際のコンダクターの関わりについて			
<司 会> 水田 博子 (東京集団精神療法研究所) <発表者> 安達 佳代 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック) <スーパーバイザー> 池田 真人 (聖路加国際病院)			
発表者が担当するグループは隔週で実施であり、参加者は、外来、デイケア (就労支援・リワーク) と混在している。男性へのトラウマを抱えた女性メンバーの参加以降、発言者の偏りが大きい印象がある。男性批判が話された際、各々の体験や気持ちを確認し共通テーマになるよう心がけるが、参加者同士の衝突が起こらないようコンダクターが先回りしていると感じており、コンダクターの思いがグループに与える影響について検討したい。			

体験グループⅠ		14:30~17:30	C403
参加資格：会員限定			
<コンダクター> 藤 信子 (立命館大学) 河野 正明 (林間メンタルクリニック)			

自主ワークショップⅠ		14:30~17:30	A400
グループの多彩な力を体感する ~ダンス/ムーブメントセラピーを通して~			
神宮 京子 (群馬病院)			
人は異なるグループの中で様々な「顔」を見せつつ、同時にその人らしい真正さを生きる。からだや動きの率直な反応は、グループの中で待たないしに表れやすく、私たちはそこから多くを学ぶ。本ワークショップではダンス/ムーブメントセラピーの異なるアプローチのミニ・グループ体験を積み重ね、BERNという分析法を活用しながらグループの相互交流を吟味し、多様なグループを生き、またそれらを活かす方途を探ってみたい。			

自主ワークショップⅡ		14:30~17:30	C401
“機能的サブグループ”で対人コミュニケーションを学ぶ			
鴨澤あかね (北星学園大学) 大島寿美子 (北星学園大学) 泉屋 有理 (相川記念病院)			
人は無意識に様々な心的防衛を使って日々関わっている。SCT (Systems-Centered Training/Therapy) では、個人およびグループのシステムの発達と心的防衛の理解を通じてシステムの発達を促していく。ワークショップではシステムの発達と心的防衛のパターンを解説すると共に、SCTの中核的手法である機能的サブグループを用いて、日常場面で役立つコミュニケーションを体験的学ぶことを目的とする。			



自主ワークショップⅢ

14:30~17:30

C402

急性期病棟と地域におけるグループの実際と意義
～急性期治療から地域生活支援への動向を踏まえて～

二之宮正人(八幡厚生病院)
高 富栄(新淡路病院)
吉川 真衣(大阪医科大学付属病院)
福澤 宏之(札幌トロイカ病院)
森本 松子(八幡厚生病院)
矢花 孝文(みさと協立病院)
東端 憲仁(北海道立緑ヶ丘病院)

現在、精神科を取り巻く状況は、厚労省の「改革ビジョン」の施策もあり、救急・急性期病棟による入院期間の短縮や、地域での生活を促進する動きが加速している。私達はその状況を踏まえ、今回も発表を行いたい。急性期病棟のグループと地域ケア会議の事例を、シナリオロールプレイとして提示する予定である。現在の精神医療における集団精神療法の位置づけの確認と、治療的意義を参加の皆さんと共に見つけていきたい。

自主ワークショップⅣ

14:30~17:30

A500

スクールカウンセラー×集団精神療法

梶本 浩史(東京都スクールカウンセラー)
鎌田明日香(札幌市スクールカウンセラー/大通りつげのクリニック)
菊地寿奈美(京都市スクールカウンセラー)
菅 武史(広島市スクールカウンセラー/押尾クリニック)
新本 葉子(宇品神田クリニック)

本WSは、学校現場の事例について、スクールカウンセラーなどの仕事に生かされる集団精神療法的な視点や方法を用いて、参加者が体験的に相互検討する機会である。
学校教育分野での集団精神療法的な視点や方法を用いた仕事に関心のある人(主に会員)を対象としている。(非会員も参加可。)
検討素材としてグループ場面のシナリオを主催者が用意し、シナリオロールプレイを通して事例を理解する。(実例が架空事例は未定。)

自主ワークショップⅤ

14:30~17:30

C501

子どものグループを考える
～施設に入所している子どもとの集団精神療法の実践を通して治療構造を考える～

渡部 京太(広島市こども療育センター)
西村 馨(国際基督教大学)
田淵 賀裕(関東医療少年院)
中里 容子(神奈川県立精神医療センター)
中村 慎(広島市こども療育センター愛育園)

不適切な養育環境で育ち養護施設などに入所している子どもとの集団精神療法をとりあげる。アタッチメントや衝動統制に問題を抱えている子どもと集団精神療法を行う際には、どのような治療構造を設定するのか、さらにセッション終了後に施設に戻った時に起こるかもしれない問題行動にも気を配る必要があるだろう。治療接近が困難な子どもとの集団精神療法の取り組みを検討し、治療上の工夫を考えてみたい。

自主ワークショップⅥ

14:30~16:00

A404

ゲシュタルト療法ワークショップ

室城 隆之(江戸川大学)

ゲシュタルト療法は、フリッツ・パールズらによって考案された実践的な集団精神療法で、心理的な葛藤の原因となっている未完了な欲求や感情に、身体との対話やチェア・ワーク等を用いて「今、ここ」で気づき、体験し、完了することによって、人間に生まれつき備わった自己調節機能を機能させ、葛藤の解決を図るものです。このワークショップでは、ゲシュタルト療法の理論的背景について説明した後、実際にワークを行いません。

自主ワークショップⅦ

14:30~16:00

A407

戦争体験のシェアリングに向けた試み

藤堂 信枝(白峰クリニック)
高林 健示(クボタ心理福祉研究所/東京集団精神療法研究所)
野村 学(田崎病院/輔仁クリニック)

今、私たちは「戦争」についてどのように感じ、どのように考えるのでしょうか。
私たちの心の底には、戦争や災害、偏見差別という社会的トラウマについての記憶が潜んでいます。しかし、こうした事柄について話そうと思うと不自由さを感じます。この不自由さはどこからくるのでしょうか。
31、33回大会に引き続き、「戦争」という社会的トラウマが「わたし」に及ぼしている影響についてグループ体験を通して考え、自分の「ありよう」に向き合う機会にしたいと考えています。

自主ワークショップⅧ

16:15~17:45

A404

こうえん

高橋 馨(日本医科大学)
野中 稔(保健同仁社)
藤澤 希美(愛知医科大学)
ト部 祐介(関東中央病院)

第25回大会から毎年開催している出入り自由の体験グループです。参加資格制限なし。
当初は他のワークショップに参加できなかった人、学会初心者の人などを拾う役割としてありましたが、最近はそのれらに加え、大会で役割を負っている人や大会運営委員の休憩の場、わずかな時間でのグループ体験を提供する場として機能が充実してきたように感じています。

自主ワークショップⅨ

16:15~17:45

A407

ナラティブなグループアプローチを体験する(その8)
～体験グループにリフレクティングを応用する～

望月 洋介(浜松医科大学)
田代 順(山梨英和大学)

今回は、体験グループにナラティブアプローチの1つであるリフレクティングを組み込む実践を行う。まず、ナラティブアプローチの理論、リフレクティングやアウトサイダーウィットネス、リメンバリングなどの説明と体験学習(3人で行う最もミニマムなリフレクティングトーク)を行う。その後、体験グループにリフレクティングを応用したグループを実践し、集団精神療法にナラティブな手法を応用する可能性を参加者と共に検討する。



CGSミーティング 8:30~9:15 講堂

テーマセッションV リワーク 9:30~11:00 A401

<司 会> 齋藤 英二 (築地サイトウクリニック) 柴田 応介 (初台クリニック)	
V-1 ストレスチェックの活用法に関するグループディスカッションの結果と考察	奥山 翔子 (さっぽろ駅前クリニック) 花井 直人 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック)
V-2 主訴の違いによって見られる精神科デイケア参加初期の不安	下村 一真 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック) 栗山 千鶴 (さっぽろ駅前クリニック)
V-3 リワークデイケアにおける「帰りミーティング」の機能について	中村亜紀子 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック)

テーマセッションVI がん 9:30~11:00 A403

<司 会> 西田知佳子 (NPO法人環の会) 岩淵智恵美 (陽和病院)	
VI-1 日本人がん患者グループへのMCP(Meaning Centered Psychotherapy)導入の課題	大島寿美子 (北星学園大学) 鴨澤あかね (北星学園大学) 円山 拓子 (北星学園大学大学院)
VI-2 がんのピアサポートにおけるグループアプローチの意義	円山 拓子 (北星学園大学大学院) 鴨澤あかね (北星学園大学) 大島寿美子 (北星学園大学)
VI-3 がん患者への集団精神療法の効果	中村 千珠 (京都ノートルダム女子大学) 河瀬 雅紀 (京都ノートルダム女子大学)

テーマセッションVII 依存症 9:30~10:30 A503

<司 会> 奥田 宏 (ひろメンタルクリニック/金沢工業大学) 堀川百合子 (のぞえ総合心療病院)	
VII-1 依存症専門病棟における活動集団療法	中里 容子 (神奈川県立精神医療センター)
VII-2 ゲーム・ネット依存症の集団精神療法—治療におけるグループの位置づけ—	森智 秀 (のぞえ総合心療病院) 坂口 信貴 (のぞえ総合心療病院) 堀川百合子 (のぞえ総合心療病院) 堀川 公平 (のぞえ総合心療病院)

テーマセッションVIII サイコドラマ 11:10~12:40 A401

<司 会> 高橋 美紀 (S&Cサイコドラマ・ラボ) 土屋 明美 (東京サイコドラマ研究会)	
VIII-1 リワークデイケア初期参加者へのアプローチについて	早坂麻衣子 (さっぽろ駅前クリニック) 花井 直人 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック)
VIII-2 舞台発表を前提としたグループセッション	宇野 寛子 (京ヶ峰岡田病院)
VIII-3 札幌サイコドラマ研究会の30年の歩みと存在意義、そして今後の展望	前田 潤 (室蘭工業大学/札幌サイコドラマ研究会)

テーマセッションIX 発達障害2 11:10~12:40 A403

<司 会> 加藤 隆弘 (九州大学) 池田 望 (札幌医科大学)	
IX-1 成人発達障害者への映画を用いた感情認知プログラムの実践	足立 桜 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 大濱 伸昭 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 山本百合子 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 栗山 千鶴 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院)
IX-2 就労支援デイケアにおける発達障害者支援プログラムの活用について	大濱 伸昭 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 岡崎 亮 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 佐藤由希子 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 大賀絵里香 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック 日興ビル分院)
IX-3 成人発達障害者に対する、マイナス思考を減らして希望を生み出す技法の取組みと検討。	岡崎 亮 (さっぽろ駅前クリニック) 横山 太範 (さっぽろ駅前クリニック) 大濱 伸昭 (さっぽろ駅前クリニック)

テーマセッションX 治療グループ 11:10~12:40 A503

<司 会> 橋本 誠 (秋田赤十字病院) 長谷川麻弓 (あつぎ心療クリニック)	
X-1 総合病院の精神科急性期病棟でグループを始めて	吉川 真衣 (大阪医科大学附属病院) 川茂 聖哉 (かわしげクリニック/大阪医科大学附属病院)
X-2 精神障がいをもつ人との園芸活動を介したグループの実践	大森 眞澄 (島根県立大学) 青戸由理子 (花みずきナースステーション)
X-3 入院グループで観察された、グループへの参加をめぐる統合失調症患者の特徴的な行動について	岡田佳澄美 (八潮市教育相談所) 塚瀬 将之 (式場病院)



大会企画「現場から学ぶ」

集団精神療法は、病院という医療現場のみならず、保健福祉や、司法、教育など様々な現場で活用されるようになってきています。またもう一方で以前から、自助グループやコミュニティーワーク、教育現場、職場のチームなど、集団で営むことをその原動力としている場が、この世界にあまた存在しています。それらの現場では狭義の「集団精神療法」という言葉よりも、「集団力動という視点を持つ」、さらに大会テーマに関わっていえば「そこに棲む“グループな力”を活かす」という方がびっぴりとするほどに、多種多様な状況や課題があり、そしてまた可能性が広がります。大会企画「現場から学ぶ」は集団精神療法が様々な現場でどのように行われているのか、その現場に棲む“グループな力”を活かすための基本的な考え方や具体的な進め方、現状と課題について対話し、学びあうための企画です。企画タイトル通り、既存の理論や方法論から現場を一方的に照射するのではなく、まさにその現場で生じていること自体を知り、そこから考え、参加者の皆さんと相互的に学びを深めていくことを大切にしたいとの思いで、それぞれのコースを企画しました。すでにそれぞれの現場でグループを活用されている方、興味・関心がおありの方はもちろんですが、「グループって何だろう?」、「自分の現場でもグループを始めてみたいのだけれどもどうしたらよいのだろうか?」という方は、ぜひご参加下さい。初学者の方には前日に行われる基礎講座と合わせての参加をお勧めいたしますが、二日目の当企画のみの参加も歓迎です。

1. コミュニティワーク

9:30~12:30

A408

街づくりからみるグループ

<総合司会> 本間 真理 (札幌深仁会リハビリテーション病院)
 <シンポジウム司会> 重泉 敏聖 (NPO法人きなはれ 就業・生活応援プラザ とねっと)
 <発表者> 清水 耕策 (京極町社会福祉協議会)
 小林 春美 (白石まちづくりハウス 副代表)
 藤原美由紀 (手稲まちづくりネットワーク 代表)
 <コメンテーター> 中村 和彦 (北星学園大学)

地域福祉実践 - コミュニティワーク - において集団を見る・扱うという視点は専門家だけではなく、そこに参画している様々な人たちの共有も必要であろう。そこで、本コースでは障がいのある方や高齢の方、様々な方たちが出会い、集う場を提供し、活動をしている3名の方たちにグループを中心として実践報告をしていただき、そこから専門家と呼ばれる人とそうではない方で見える視点の差異、共有できること、できない事をシンポジスト形式で協議し、まちづくりの取り組みの中でのグループの視点を深めていくことを狙いとする。

2. 組織 (職場等)

9:30~12:30

A400

“感情労働”の現場に棲む“グループな力”を活かそう!

<司会> 福澤 宏之 (札幌トロイカ病院)
 小黒明日香 (札幌市児童相談所)
 <話題提供者> 荻瀬ゆり恵 (札幌市児童相談所)
 <講師> 武井 麻子 (Office-Asako)

参加する方々にグループのポジティブな力を発見・確認してもらう機会を作ろうという企画の中で、本コースは、誰しもが何らかの形で所属している「組織」に着目しています。当日は、講師から「感情労働」の現場に棲む“グループな力”を活かそう!と題して、60分のミニレクチャーをしていただきます。その後、話題提供者から児童相談所に就職してから現在に至るまでに経験した、職場での日々を振り返りながら発言していただきます。後半は、講師・話題提供者、そして参加者を含めたやりとりを介して、直接的な臨床実践でグループに携わってなくても、グループの視点が役立つことを広く知ってもらう機会にしたい、ということがねらいです。みなさんの中には「集団精神療法」という言葉を知っていても、所属する“組織”を“グループの視点”で見ている方は多くはないのではないのでしょうか。身近にある「グループ」が意識されるようになると、日常で起こっていることの見方が変わり、関係性も変わってくる可能性があります。逆に、大きな“組織変革”に直面しても、“グループな力”を知っていると、その渦をなんとか生き延びる助けになるかもしれません。グループを実践している人も、そうでない人も、“組織”に関わる“グループの視点”について一緒に考えてみませんか。みなさんのご参加をお待ちしております!

3. 学校教育

9:30~12:30

C401

学校で、そこに棲む“グループな力”を活用する ~学校集団力動、ことはじめ

<司会> 鎌田明日香 (大通りつげのクリニック/札幌市スクールカウンセラー)
 <話題提供者> 青陽 千果 (札幌市スクールカウンセラー/北星学園大学大学院)
 <助言者> 野村 学 (田崎病院/輔仁クリニック)

学校教育は、たくさんの“集団”~地域、家庭、学級、校内の各種の活動、PTA、職員集団、仲間集団...などが重なりあった環境でなされているといえる。しかし、これまで学校教育のあり方を集団力動の観点から検討する機会はほとんどなかったと言っても良いだろう。

子どもの教育のためにうまく機能している集団と、病理性を帯びたり硬直化したりした集団というのはあるように思われるが、そこにはどのような違いがあるのだろうか。また、集団の何をどう見て、どう関わることが、効果を生むのだろうか。

このコースには、札幌でスクールカウンセラーとして活躍中の非会員の方を話題提供者として、沖縄のスクールカウンセラーで長く経験を積んできた学会員を助言者として迎える。

これまで集団精神療法になじみのない方にも理解を深めていただけるよう、助言者によるミニレクチャーを用意する中、コース参加自体もグループ体験と捉えながら、参加者とともにワークショップを作り上げていきたいと考えている。

集団力動のメガネをかけて学校を眺め、学校にある“グループな力”の活かし方を発見してみたい。

4. 児童

9:30~12:30

C402

集団の中で子ども達と関わりあう

<司会> 水上真理子 (石橋病院/むぎのこ発達クリニック)
 <実践報告者> 芦名知香枝 (NPO法人あい)
 <講師> 渡部 京太 (広島市こども療育センター)

子どもの現場は、敢えて、「グループセラピー」などとの設定をしなくとも、最初から集団であることが多い。幼稚園や保育園、その後、小学校への入学と、多くの子ども達は集団を渡り歩きながら、ある側面では集団の中で成長すると言える。それはまるで、子ども達にとっても、また、子どもの成長を支える人々にとっても、集団の中で関わりあっていくことが当たり前になっているかのようである。近年では、発達障害やトラウマを抱える子ども達への精神医学的・心理学的な治療およびケアが必要となり、病院やクリニックのグループに子ども達を導入し、治療という枠組みの中での関わりが増えた。医療の現場でなくとも、いわゆる学校などにフィットしない子ども達に対する社会的な受け皿として、また、必要なケアを提供する場として、児童デイサービスやフリースクールなどが我々の生活に根付いて久しい。児童養護施設でも、昔ながらの家庭的で温かい生活を保障しながら、最近では、専門的な援助技術や治療的マインドと、育ちを見守る両方のエッセンスを日常場面に染み渡らせることで、現代の子ども達のニーズに対応しているように見える。

本コースでは、子どもへの関わり方や視点の持ち方などの基本的な講義のみならず、臨床例を元に、子どものグループで起こりがちなことや援助者の困り感、そして、そこに息づくグループとしての力に焦点を当てる。加えて、このコースを通して、子どもに関わる人、将来的に関わる予定や希望のある人、直接的に関わっていかなくとも関心や問題意識のある人達とともに、グループを活用することの面白さ、有用性、コツなどを探っていくことを期待したい。



5. 司法・更生

9:30~12:30

A500

刑務所の『薬物依存離脱指導』に「グループな力」を活かす

<司 会> 木村 睦 (北海道立精神保健福祉センター)
東端 萌李 (北海道立精神保健福祉センター)
<発表者> 鈴木 育美 (札幌刑務支所 教育専門官)
宮城 崇史 (京都大学大学院)
<助言者> 藪谷 巖 (大通公園メンタルクリニック)

隔離や罰では回復しない薬物依存症。刑務所という現場でも、薬物依存症に対する「治療」の試みが始まっている。しかし、まだ端緒にすぎない。現場でどんな治療、グループ実践が行われているか、ご存じない方も多いただろう。また、実践されている方は、このやり方で良いのだろうか、疑問や不安を抱えながら、試行錯誤を重ねているかもしれない。

このコースでは、実際に女性の刑務所におけるグループ実践を事例提供いただき、そこでどのようなことが起きているのか検討しながら、刑務所という現場におけるグループのあり方を考え、難しさや面白さを分かち合ったり、実践への新たなヒントが得られる場にできればと考えている。

刑務所で実践されている方もそうでない方も、集団精神療法を知っている方も知らない方にも、奮って参加いただきたい。

6. 地域での支援 (就労・生活)

9:30~12:30

C501

地域での支援現場に棲む“グループな力”を活用する

<司 会> 山本 創 (石橋病院 / NPO法人コミュニティ楽創)
<実践報告者> 西町 祐哉 (白石障がい者就労センター スカイ)
吉野 良 (白石障がい者就労センター スカイ)
<講 師> 関 百合 (クボタ心理福祉研究所)

地域での支援の現場は、住居などの生活支援、就労支援、相談支援など多岐にわたっています。退院後の社会生活を支えていくそれらの場では、個別支援とともに、日々様々な集団での活動が営まれています。その営みは整然とした「療法」という言葉などはおおよそ馴染まない、次々に事が起こってくる混沌としてエネルギーが、まさにそれ自体が社会の中での生活の一部です。だからこそ、利用者と援助者の間合いが近く、また場の枠組みや構造が曖昧であったりします。

そういった場の特徴を持つエネルギー=力(ちから)が、地域での支援実践の面白さであり、時に難しさでもあるのではないのでしょうか。

集団を見る視点を持つことは、その場に在る“グループな力”をより援助的に活用することを可能とし、日々の地域での支援実践をより面白く豊かにする一つの方法と考えます。

本コースは、グループを見るための基礎的なことなどについての小レクチャーを行なった後に、就労支援の現場の実践報告検討を行う、という構造で進みます。参加者の皆さんとそれぞれの苦労や経験知、気づきを分かち合うことを通して、まさにその場に生じるグループな力を体感していただければ幸いです。

7. 自助グループ・サポートグループ

9:30~12:30

A404

嗜癮・依存症の自助グループと治療・サポートグループ (の進め方)

<司 会> 樋掛 忠彦 (長野県立こころの医療センター駒ヶ根)
山本 薫 (旭山病院)
<報告者> 二口 之則 (北海道立精神保健福祉センター)
12steps系のメンバー
断酒会メンバー
<指定発言> 田辺 等 (北星学園大学)

依存症問題からの回復過程では、同じ問題を持つ人が集うグループは貴重な回復促進の資源である。この貴重な資源を生かす、すなわちグループで作用する治療的、成長促進的な力をどう有効に活用するか、を皆さんと一緒に考えるのがこのコースの内容である。

まず当事者自身の運営によるグループの長所と運営の課題、専門職の行う治療・サポートグループの利点と限界などを、報告していただき、それに基づきながら、みなで課題を確認しグループディスカッションで解き明かしていきたいと考える。

指定発言者からは、当事者グループ、サポートグループの活用が、依存症の回復に対して、どのような治療的意義があるか、またグループ運営の方法についてもコメントをしていただく。日頃のグループ運営で困る問題についても、参加者からの発言に応じて、自在に扱っていきたいと考える。

※グループ運営、特に自助グループや施設のグループ、嗜癮・依存症の治療・サポートグループに関心のある方は誰でも参加できます。

事例検討Ⅱ

9:30~12:30

C502

精神科病院における女性グループ—患者と看護師の相互交流の場としての挑戦—

<司 会> 高 富栄 (新淡路病院)
<発表者> 木下 香織 (和ホスピタル)
<スーパーバイザー> 岡島 美朗 (自治医科大学附属さいたま医療センター)

発表者は、平成28年4月より「Teaサロン」という女性だけの茶話会グループを行っている。発表者が勤務する精神科病院は120床ほどの民間病院で、入院棟は療養病棟と急性期病棟の2病棟(内訳は3セクション)である。

当院は、その3セクションともに男女混成病棟であることや、作業療法もすべて男女混成プログラムで構成されていることから、女性だけのグループが良いというスタッフの思いつきと患者からの希望もあり、グループの構造は患者もスタッフ(看護師・心理士・作業療法士)も女性だけのオープンなグループとしている。

開始当初より、毎回3セクションから10名程度の患者が集い、お茶を飲みながら語らう空間となった。病棟の日常とは違う患者の語りや様子に驚くことが多く、スタッフはこのグループに意味を感じているものの、“患者層の多様さ”や“病棟との共有”など、実施するうえでの難しさを感じ始めている。特に病棟の看護師は、日常の業務に圧倒されてゆっくりと患者と語らう時間もない状況であることから、このグループへの理解を広めたいし、できれば一緒に参加するなど患者との相互交流のために活用してもらいたい。今回は、スタッフの関わり方について再考するために様々な角度からのグループ理解、改善点、今後の可能性などを中心に、この事例の検討を希望する。

体験グループⅡ

9:30~12:30

C403

参加資格：限定なし

<コンダクター> 稲村 茂 (メンタルクリニック秋田駅前)
多喜田恵子 (愛知医科大学)



自主ワークショップX

9:30~12:30

C500

東日本大震災等の相互支援グループ

藤澤 美穂 (岩手医科大学)
 藤 信子 (立命館大学大学院)
 西川 昌弘 (神奈川大学大学院)
 田原 明夫 (田原メンタル・クリニック)
 高林 健示 (クボタ心理福祉研究所)
 安部 康代 (安田病院)
 針生 江美 (国見台病院)
 長友 敦子 (宮城県中央児童相談所)

東日本大震災等の相互支援グループ(以下、相互支援グループ)は、2011年3月11日の東日本大震災から二日後の日本集団精神療学会第28回大会(京都)における緊急ワークショップを第1回として、以降全国での相互支援グループの開催と、集団精神療学会年次大会での自主ワークショップを継続してきている。2017年は2月東京、3月大宮(第34回大会)、5月仙台、7月京都、10月福島と、通算46回の開催を数えている。第35回札幌大会では、第47回目の相互支援グループとして、東日本大震災をはじめとする災害等について語り合うグループを自主ワークショップとして開催したい。セッションは85分×2セッションおこなう。

自主ワークショップXI

9:30~12:30

A501

「不祥事」(あるいは「DrY問題」と呼ばれる出来事)と学会の「トラウマ」をめぐって
 —22年目のふり返し

相田 信男 (群馬病院)
 西村 馨 (国際基督教大学)
 鈴木 純一 (東京集団精神療法研究所)
 北西 憲二 (北西クリニック)
 菅 武史 (押尾クリニック)
 片岡 圭美 (綾瀬病院)

彼が起こした「事件」とは何だったのか、JAGPとの関連でどう考えたらいいのか?その出来事をめぐって、もはや全く知らない会員から噂だけを聞いて幾分かの混沌の中にいる会員までもが増えてきた今の時代に、もう一度その事実を学会というグループの観点からふり返し、課題を論じ合いたい、という企画である。各世代からの発言の後に大グループの形で進めたい。

シンポジウム 今ここに棲むグループな力

13:40~16:40

講堂

<司会> 東端 憲仁 (北海道立緑ヶ丘病院)
 吉野 淳一 (札幌医科大学)

S-1~4
 それぞれの現場からの活動報告

鳴海 紗恵 (自死遺族の会 分かちあいの会ネモフィラ代表)
 伊藤 美子 (子育てわかち愛会 代表)
 後藤 龍太 (シンの集い)
 みなこ (札幌SORA)

グループ療法は入院医療から地域医療へそして保健・福祉の領域へと実践の場を広げ、さらには療法という枠組みをも超えて教育など幅広い分野においてもその手法が活用されています。またグループの力を活かした当事者活動には依存症の自助グループなど長い実績を持つ伝統的組織が存在します。そしてグループの力を潜在的に取り入れた新たな営みが数多く地域社会に生まれていると感じます。その背景には人としての自然なグループへのニーズが遍在し、グループの誕生を待ち望み、社会の変化から多様なグループのあり方が求められているようにも感じられます。

グループ療法がそうしたニーズに答えて今後どのように地域社会に貢献していけるか、新たな活躍の場とその方法を考えるにあたり、専門家は勿論のこと、利用者や専門職以外の視点からもグループ療法のあり方を検討する契機として、自助グループ活動や地域での支援活動を実践されている方たちと会員との出会いの場をシンポジウムという形で設けてみました。

その一方で、グループ療法の有用性を活かすにあたっては、集団主義へ陥ることの危険性などグループを扱う上で注意しなければならないことや専門家が弁えなければならない分もまた検討を要するところかと思えます。シンポジストの方々のご発表と参加者の皆さんによるディスカッションが、グループ実践家の輪を広げ、新たな活動を生んで適切に活用されることへとつながり、さらには長年培われてきた実践や理論にとっても新しい展開や深化の契機となれば幸いです。